

「状況」から出発するアプローチ - 新しい日本語教育の可能性 -

講師：小林 ミナ 氏

(早稲田大学大学院日本語教育研究科・教授)

開催日時：2022年2月26日(土) 15:00 - 16:30

対象：日本語・言語教育全般に関心のある教員および学生

事前申込不要・参加費無料・先着300名参加

開催方法：Zoom ミーティングによるオンライン講演会

PCのブラウザから下記URLをクリックするか、Zoomアプリから、
下記ID、パスワードを入力してご参加ください。

<https://sophia-ac-jp.zoom.us/j/91351850197>

ミーティングID：913 5185 0197

パスワード：200291

本発表では、日本語教育において「状況」から出発するアプローチについて、そのような構想に至った経緯を紹介するとともに、このアプローチが日本語教育に与えるインパクトについて考えます。これまでの日本語教育は、方法や内容に多少の違いはあるものの、そのほとんどが「言語」から出発するアプローチをとっていました。言語教育のひとつである日本語教育が、このようなアプローチをとること自体は、一見、必然であり理に適っているように思えます。しかし、「言語」から出発するアプローチには、理論と実践の両面において問題があります。「状況」から出発するアプローチは、これらの問題点を克服する方法になり得ると考えます。また、「状況」から出発するアプローチが、現状の日本語教育にもたらすインパクトについても考えたいと思います。(小林 ミナ)

講演者略歴：早稲田大学大学院日本語教育研究科・教授。名古屋大学大学院博士課程満期退学。博士(文学、名古屋大学)。教育文法、文法教育、コース・デザインなどを専門とする。ボランティア日本語教室、個人レッスン、日本語学校非常勤講師などを経て、1994年から2006年まで、北海道大学留学生センター助教授、2006年から現職。

主な業績：著書に『外国語として出会う日本語』(2007年、岩波書店)『日本語教育 よくわかる教授法——「コース・デザイン」から「外国語教授法の史的変遷」まで』(2019年、アルク)『プロセスで学ぶレポート・ライティング——アイデアから完成まで』(「日本語ライブラリー」シリーズ)(2011年、細川英雄、館岡洋子との共著、朝倉書店)など多数。最近は、国立国語研究所機関拠点型基幹研究プロジェクト(公募型共同研究)「具体的な状況設定」から出発する日本語ライティング教材の開発(2016~2019年度)やJSPS科研費基盤研究(B)「日本語学習者が日本語を「打つ」ために必要な支援とは何か」(2020~2024年度)で本講演にも関連する研究のプロジェクトリーダーを務めている。

<ご参加にあたっての注意事項>

- ・音声はミュート、ビデオはオフにしてご参加ください。
- ・講演内容のスクリーンショット、録音、ダウンロード、撮影、コピーはしないでください。
- ・技術的な質問(ZOOMの使い方等)や講演内容についての回答はチャット上では行いません。
- ・質疑応答時間は別途設けますので、『手を挙げる』機能を選択して、講演者または運営者からの指示をお待ちください。
- ・他の参加者様のご迷惑にならないようご発言にはご注意ください。

不適切な発言が確認された場合、運営者の判断により強制的に退場していただく場合があります。